

都市再生整備計画(第3回変更)

ほそ
細地区

おおいた
大分県 大分市

令和4年3月

事業名	確認
都市構造再編集支援事業	☒
都市再生整備計画事業	☐
まちなかウォークابل推進事業	☐

目標及び計画期間

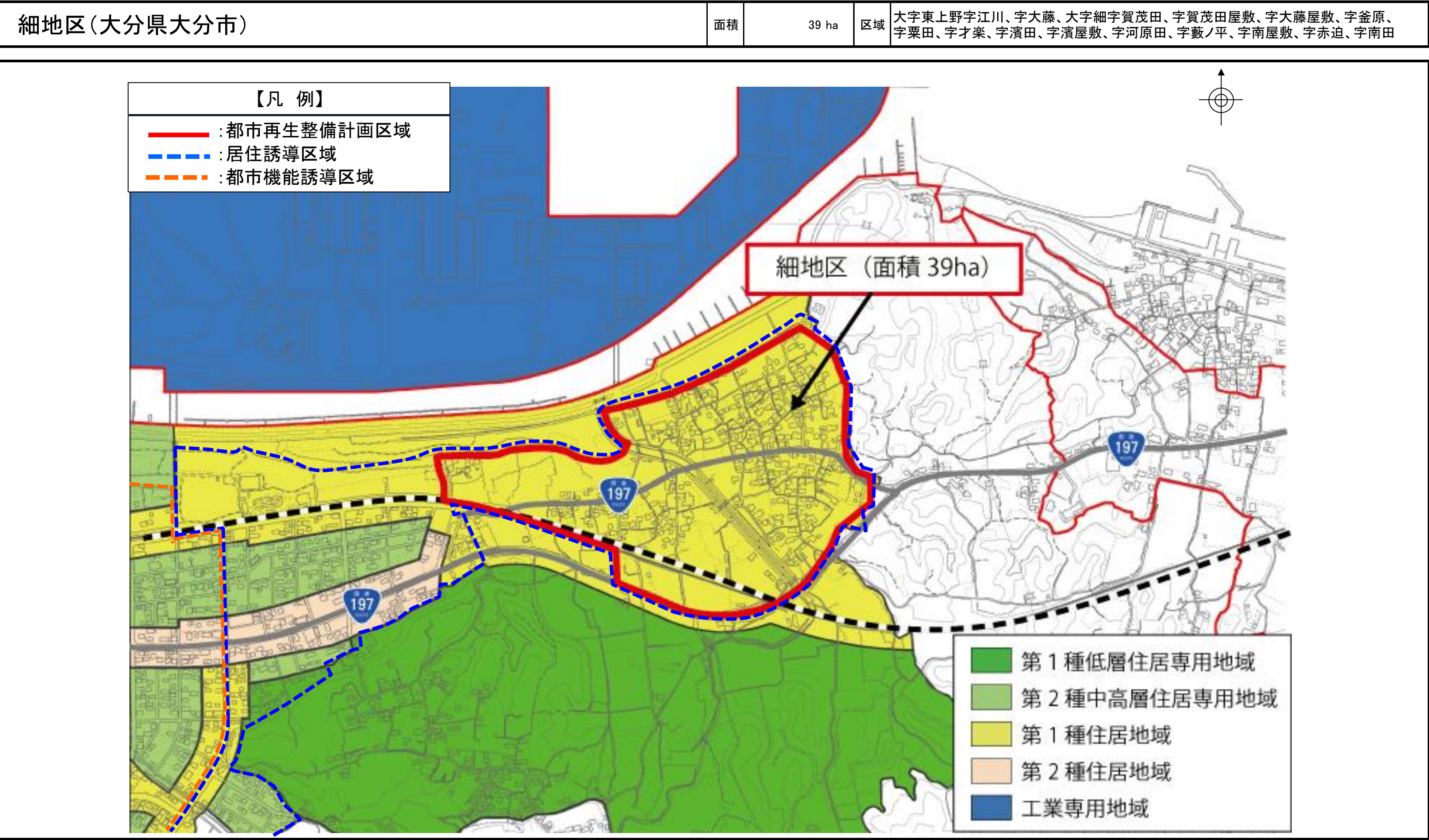
様式(1)－②

都道府県名	大分県	市町村名	大分市	地区名	細地区	面積	39	ha
計画期間	平成	29	年度	～	令和	3	年度	
					交付期間	平成	29	年度
						令和	3	年度

目標
大目標:若者にも高齢者にも安心・安全な生活環境を整え、豊かなコミュニティを育む、健康・元気な細のまちづくり 目標1:都市防災機能の強化や日常生活の利便性向上のための防災道路や公園・広場等の整備 目標2:住民同士の交流を図るための合意形成活動の実践による地域コミュニティの強化
目標設定の根拠
都市全体の再編方針(都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用を考え方を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針) 本市では、都心部に商業施設や公共施設、文化施設、高等教育機関など多様な都市機能が集積しているが、生活利便施設立地状況は地域で差が大きく、徒歩圏人口密度は将来的に減少することが見込まれ、地域の特性に応じた多様な都市機能の維持・確保が困難になる可能性がある。都市機能施設が存続するためには、周辺における利用圏人口の確保が必要である。 そのため、拠点における生活利便施設の維持・誘導および利用者数の確保によるまちの魅力づくりや、公共施設等の長寿命化および再配置を進め、都市機能の拡散防止と公共・公益サービス機能の維持を図る。 また、公的不動産の活用策として、公共施設の複合化・多機能化・統廃合等を進めるとともに、廃止となった誘導区域内の公共施設跡地については、公共や民間による誘導施設整備の事業用地として有効活用を進める。 さらに大分駅周辺の公有地においては、鉄道、路線バス、タクシーなどの公共交通の円滑な乗り継ぎ環境の形成に向けたバスターミナルの整備や民間施設との複合化による有効活用を検討している。
まちづくりの経緯及び現況
・大分市では、別府湾沿いに展開する臨海工業地帯の背後地において、土地区画整理事業などにより良好な市街地形成を進めてきた。細地区西側に隣接する坂ノ市地区においても、土地区画整理事業により道路網や公園などが整備されている。 ・本地区は、日豊本線坂ノ市駅より東方2kmに位置し、現在のところ典型的な地方集落の様相を呈しており、既存住宅において生活基盤施設の整備が立ち遅れていることから、安全快適な居住環境とは言えない状態である。 ・このことから地元より土地区画整理事業の陳情が提出されたが、市の財政事情、地元負担を考慮し、住環境整備事業として各種公共施設の整備改善をおこない、良好な市街地の形成を目指している。
課題
本地区における若年世代の流出の原因は、農漁業の衰退などによる地元での雇用環境の不備が主因であるが、道路網等の都市基盤未整備による自動車利用の不便さなどが、若年世代の流出に拍車をかけている状況にある。また、道路網の未整備による災害時の避難行動の制約など防災面での課題も抱えており、生垣や祭りなどの地区固有の資源を活かしながら生活環境の整備を進め、若年世代の定着と高齢者も含めた地区住民の日常生活の活性化を図ることが強く求められている。このような中で本地区における課題としては以下が挙げられる。 ○防災を考慮した道路網の整備(地区内において、既存の道路を活用した消防活動や避難行動の円滑化を促す道路整備。) ○排水不良区の解消(排水不良区を主体とする雨水の排水対策。) ○地区コミュニティ活動の継続(生きがい醸成につながる、各種コミュニティ活動の継続や新たな活動おこし。) ○公園・広場等の整備(地区内における一定規模の公園等の整備。) ○地域資源の活用(地区の歴史性を象徴する神社・寺院など、地区の歴史の伝承とその活用。)
将来ビジョン(中長期)
・住環境整備に関わる多面的な取り組みを通して、防災・防犯・交通事故等の危険が少なく安全・安心、かつ地区のコミュニティが確保され多様な世代が生き活きと暮らす細地区を目指していく。 ・「大分市都市計画マスタープラン」においては、「市街地の整備方針」の項において、“細地区等の密集市街地や狭隘道路地区等において、安全・安心な市街地整備改善を図るため、都市施設の整備状況や住民の意向等を踏まえながら、住環境整備事業等を推進します”と位置づけられている。また、地区別構想においても、“細地区では、生活道路の改善などによる計画的な住環境の整備を推進します。”と位置づけられている。

都市構造再編集集中支援事業の計画 ※都市構造再編集集中支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。							
都市機能配置の考え方 JR大分駅を中心とした中心市街地およびその周辺部においては、「都心部の魅力の創出や都市機能の集積・強化」を図り、県都および東九州の中核として重要な拠点となる「大分都心拠点」の形成を図る。また、旧市町の中心部など歴史的に地区の中心的役割を担ってきた各「地区拠点」においては、地区の特性を生かしたまちづくりの推進による「地域の活力の維持・増進」を図る。さらに、拠点間を相互につなぎ、交流・連携の骨格となる「交通体系」の形成・強化を進める。商業、金融、医療、子育て支援施設など日常生活に必要な生活利便施設については、「都心拠点」と「地区拠点」の両方に誘導することが望ましい施設と設定している。広域的に利用され、文化の醸成やにぎわい創出に寄与する文化会館・ホール、博物館など高次な都市機能については、「都心拠点」に誘導することが望ましいとしている。							
都市再生整備計画の目標を達成するうえで必要な誘導施設の考え方 本市では、都市機能誘導に係る施策の方向性の一つとして「都心拠点及び地区拠点の活性化」を掲げており、各拠点における回遊性・滞留性向上のため、快適な歩行空間や案内サインの整備、市民の交流の場となる広場や公園・緑地などの整備を推進するとともに、歴史・文化や地域資源を生かした街づくりに向け、地区の特性に応じたまちなみ再生や住環境整備を推進することとしている。本事業地区は居住誘導区域に属しているが、道路網等の都市基盤未整備による災害時の避難行動の制約など防災面での課題を抱えている。そのため、本事業地区では、防災を考慮した道路網の整備に着手しているが、さらに事業効果を高めるため、道路整備に併せた雨水排水施設整備による排水不良区の解消、公園・広場等の整備等の周辺環境整備が必要である。							
都市の再生のために必要となるその他の交付対象事業等							
目標を定量化する指標							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
災害時等に避難困難な居住者数	人	災害時等に避難経路として通行可能な道路を利用して避難することが困難な居住者数	目標①の指標として用いる。防災道路を整備し、災害時における避難誘導の改善等による防災性ならびに日常生活での交通アクセスや治安維持の改善等による利便性を向上させる。避難が困難な居住者数の減少をめざすため、防災道路を整備するとともに、住民同士の意味疎通を図りコミュニティを醸成するための合意形成活動を実践するものとする。平成28年度には約360人(58%)であった避難困難な居住者数を事業最終年度には約230人(37%)に減少すことを目標とする。	360人	H28	230人	R3
地区防災活動への参加率	%	地元自治会を対象としたヒアリングによる、防災に関する活動への参加者	目標①及び②の指標として用いる。防災機能を備えた多目的公園や広場を整備するとともに、ワークショップ等を通じ防災に関する意識を醸成することで、防災活動への参加者数を向上させる。地区住民で構成される自主防災組織が行う避難訓練への参加者数について自治会へのヒアリングを行い、平成28年度には地区内住民の40%であったものを事業最終年度には60%に増やすことを目標とする。	40%	H28	60%	R3
運動、レクリエーション活動の参加者	人/月	魅力あるまちづくりの推進による、健康増進のための運動やレクリエーション活動への参加者	目標②の指標として用いる。多目的公園及びポケットパークを整備し、地区住民の高齢化に対する健康増進活動を行い、日常的に気軽に寄りあえ、多様な世代による交流の場を設けることで、住民相互のコミュニティ意識を拡大させ参加者を向上させる。地区住民のレクリエーション等の活動への参加者数について自治会へのヒアリングを行い、平成28年度には100人/月であったものを事業最終年度には200人/月に増やすことを目標とする。	100人/月	H28	200人/月	R3

計画区域の整備方針	
【都市防災機能の強化や日常生活の利便性向上のための防災道路や公園・広場等の整備】 地区内の道路網は旧来のままで残されており、狭い幅員と屈曲した形状で自動車の乗り入れが困難な道路が多く存在する。このため、火災発生時の消防活動において支障を来す恐れがあると共に、児童や高齢者のための歩きやすい歩行空間の確保、バス停・駅などに向かう公共交通機関へのアクセスの改善や雨天時等での排水不良区の発生の改善等が求められている。 このような問題の解決に向けて、地区内での骨格となる生活道路の拡幅整備を進めるとともに、これに伴う排水施設の整備を行う。 また、大規模地震発生時の津波被害防止のために、多目的公園やポケットパークの整備による一時避難場所を確保すると共に、生活道路の拡幅整備による避難経路の確保により、地区住民への適切な誘導等、災害対策の強化を図る。 さらに、夜間の地区内道路は狭いうえに暗く、歩行者などの通行に支障があることから、防犯灯を設置し、交通安全及び防犯性、災害時の安全対策の向上を進めていく。これらの対策により、地区住民が便利・安全・安心のまちづくりを推進していく。 なお、本市では居住誘導区域における施策において、都市基盤の整備による市街地の防災性・利便性の向上のため道路等の必要な施設の整備を進るとともに、安心して健康に暮らせる住環境の整備のためのため公園・緑地などのオープンスペースの確保を図ることとしている。	方針に合致する主要な事業 ■道路整備6-1号線外10路線(基幹事業/道路) ■多目的公園(基幹事業/公園) □防犯灯設置事業 3箇所(提案事業/地域創造支援事業) □雨水排水施設整備(提案事業/地域創造支援事業) □事業評価の実施に関する調査(提案事業/事業活用調査)
【住民同士の交流を図るための合意形成活動の実践による地域コミュニティの強化】 集落としての長い歴史を持つ細地区は、加茂神社の祭礼が季節毎に行われ、また農産物品評会など地域の産業に直結した行事が毎年行われている。これらの催しは、住民によるコミュニティ意識の醸成や地域文化の継承に大きく寄与しているが、実施場所としての神社や公民館などに制約がある事から、気軽に集まれる憩いの空間の確保が必要となっている。また、地区住民の高齢化に付随して、多くの人が健康な生活を維持していくために、運動やレクリエーション活動等が行える場所の確保と共に、起こり得る震災に備えるため避難場所・ルートの確保等、その対応が求められている。 このような問題の解決に向けて、多目的公園及びポケットパークの整備を進め、地区住民が日常生活において気軽に寄りあって憩える場、多様な世代による交流の場として、住民相互の交流機会の拡大を進めていく。 また、本地区は、土地区画整理事業が実施されなかったことで、大分市内でも歴史的な集落形態が残された数少ない集落の一つとなっている。しかしながら、地区固有の歴史的な価値を有することでは他の地区と比べて遜色はないが、地区の高齢化による貴重な歴史の記録が少しずつ失われようとしている状況にある。そのため、かつての半農半漁村としての記録や地区内に点在する墓地、地蔵の由来、さらには地区の自然素材を活用した石垣や生垣の状況など、細地区の歴史・文化を地域の大事な資源として記録・記憶し、地区住民へ配信することにより、地区の歴史・文化の継承を図る。 このようなことから、大規模災害に備えるための地域コミュニティの醸成や運動・レクリエーション活動を住民相互で楽しむ活動、地区の歴史・文化を後世に残すための地域交流を図るための合意形成活動を展開し、ふるさとの資源を活かしつつ細らしさを継承した、地域住民が自らの地域に誇りをもっていけるよう、生き生き・にぎわいのあるまちづくりを推進していく。 なお、本市では居住誘導区域における施策において、地区特性を生かしたまちづくりの推進のため、地区の特徴や課題に応じた住環境の保全や形成を目的として地区特性に応じた住民主体のまちづくりを支援するとともに、歴史・文化や地域資源を生かしたまちづくりに向けて、地区の特性に応じた住環境整備を推進することとしている。	■多目的公園(基幹事業/公園) ■ポケットパーク整備事業 3箇所(基幹事業/地域生活基盤施設) □細の地区マップ、歴史・文化記録づくり事業(提案事業/地域創造支援事業) □事業評価の実施に関する調査(提案事業/事業活用調査) □まちづくりに関するワークショップの開催(提案事業/まちづくり活動推進事業)
その他	



細地区(大分県大分市) 整備方針概要図(都市構造再編集集中支援事業)

目標	若者にも高齢者にも安心・安全な生活環境を整え、豊かなコミュニティを育む、健康・元気な細のまちづくり	代表的な指標	災害時等に避難困難な居住者数 (人)	360人 (平成28年度) → 230人 (令和3年度)
			地区防災活動への参加者 (%)	40% (平成28年度) → 60% (令和3年度)
			運動、レクリエーション活動の参加者 (人/月)	100人/月 (平成28年度) → 200人/月 (令和3年度)

